

広田遺跡ミュージアム館報

第2号

平成30年3月

南種子町広田遺跡ミュージアム

はじめに

広田遺跡ミュージアム館報の第2号を刊行いたしました。本号からは、館活動の記録だけでなく、博物館の重要な役割である調査・研究の成果を収録いたしております。広田遺跡ミュージアムでは、考古資料だけでなく、南種子町の民俗や文献なども館活動の対象としております。本号では、1年にわたり精力的な調査をされた日高友典氏による民俗調査の成果を掲載しました。日高氏の報告は、南種子町西南部の西海、西之地区のセトサカの呼称について、卓越した自説を述べられ、二万五千分の一地形図と航空写真の上に、その場所と呼称を記されました。画期的な業績であり、今後は、是非、南種子町全域を埋めていただきたいと思えます。また、日高氏の業績は、内陸部の島・山などの字絵図地名と俗称地名の完全収録を種子島全島に及ぼすという大きな仕事の一里塚であるといえるようです。

なお、本年度は、広田遺跡語り部の会の皆様による「瀬風呂焚き」の再現がされました。瀬風呂は、日本中で種子島にしかない珍しい催しであり、貴重な民俗です。岩穴焚きも珍しい催しですが、これは瀬戸内海沿岸のレンガ造りトルコ風呂につながり、その原型であるようです。

広田遺跡ミュージアムでは、今後とも、広田を中心としつつ、種子島全島の視点でも研究・運営をしていきたいものです。

最後になりましたが、本館の運営につきまして、多くの皆様方のご支援とご協力をいただいておりますことに、心より感謝いたします。今後とも皆様方のご指導、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年3月

広田遺跡ミュージアム 名誉館長 下野 敏見

目 次

第1章 館の概要

第1節 館の概要と組織 P1 ~ P3

- (1) 入館料
- (2) 館職員数内訳
- (3) 館職員名簿
- (4) 館職員事務分掌
- (5) 南種子町広田遺跡ミュージアム協議会

第2節 利用状況 P3

第2章 館の事業

第1節 展示 P4

- (1) 企画展
- (2) イベント

第2節 教育・普及啓発 P4 ~ P6

- (1) 広田遺跡ミュージアム ジュニア学芸員
- (2) たねがしま古代塾
- (3) 広田遺跡ミュージアム講座
- (4) 出前講座
- (5) 研修等

第3節 管理・運営 P7 ~ P9

- (1) 広田遺跡語り部の会
- (2) 視察
- (3) その他

第4節 調査・研究 P9 ~ P14

- (1) 調査・研究
- (2) 研究報告

「南種子町西之の坂とセの名前とその由来について」

広田遺跡ミュージアム協議会委員，南種子町文化財保護審議会委員 日高友典

第1章 館の概要

第1節 館の概要と組織

(1) 入館料

平成29年7月より、入館料を下記のとおり改正した。

区分	内 容		個人	団体
観覧料	常設展示の場合	一般（高校生以上）	300円	250円
		子ども（中学生以下）	無料	無料
	年間パスポート		500円	
	特別企画展示の場合		教育委員会でその都度定める額	
体験学習料	勾玉・貝殻アク セサリー・貝輪 づくりほか	初級コース	300円	
		中級コース	500円	
		上級コース	1,000円	
		特設コース	3,000円	

※団体とは、引率者のある20名以上の団体をいう。

※年間パスポートは、購入の日から1年間有効とし、常設展示について回数に制限なく観覧することができる。

(2) 館職員数内訳

平成29年度

役 職	専任（正職）	兼任（正職）	非常勤	専任（契約職員）	計
名誉館長			1		1
館 長		1			1
学芸員	1	0			1
庶務係長		1			1
学芸員補				2	2
合 計	1	3	1	2	6人

※上記の他、語り部を1日1名雇用している。

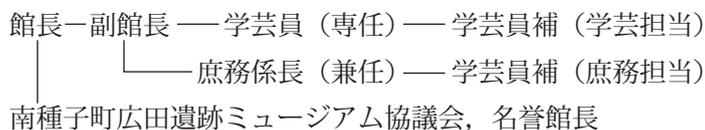
(3) 館職員名簿

役 職	平成29年度
名誉館長	下野敏見
館 長	高田健一郎（～7月）、小脇隆則（8月～）、社会教育課長兼務
副館長	館長兼務
学芸員（専任）	石堂和博
庶務係長（兼任）	才川いずみ（文化係長兼務）
学芸員補（学芸）	牛野夢美
学芸員補（庶務）	有留理沙

(4) 館職員事務分掌

役 職	氏 名	主な職務分掌
名誉館長	下野敏見	博物館事業に関する助言
館長	高田健一郎(社会教育課長)	館の運営管理の総括に関すること
副館長	高田健一郎(社会教育課長)	館長職務の補佐
学芸員(専任)	石堂和博	常設展示・特別展示に関すること 資料の収集・保管に関すること 重要文化財の保管に関すること 館報・図録その他刊行物の作成に関する こと 専門的調査・研究に関すること 普及啓発・講座・広報等に関すること 運営協議会に関すること 史跡公園の管理に関すること 体験学習に関すること 他の施設, 学校等との連携に関すること
庶務係長(兼任)	才川いずみ(文化係長)	予算の編成執行に関すること 館の管理に関すること 予算経理, ミュージアムショップその他 庶務の総括に関すること
学芸員補(学芸)	牛野夢美	普及啓発・講座・広報等に関すること 資料の収集・保管に関すること 館, 史跡公園の案内業務に関すること 受付・観覧料等の徴収に関すること
学芸員補(庶務)	有留理沙	受付・観覧料等の徴収に関すること 予算経理, ミュージアムショップその他 庶務に関すること 館, 史跡公園の清掃及び管理に関する こと 体験学習に関すること
語り部	長田君鷹ほか6名	館, 史跡公園の案内業務に関すること 館, 史跡公園の清掃及び管理に関する こと

組織図



(5) 南種子町広田遺跡ミュージアム協議会

○委員名簿

役職	平成 29 年度		
会長	長田 忠	副会長	柳田 和則
委員	日高 友典, 岩澤 昭文, 稗畠 悦朗		

○平成 29 年度 南種子町広田遺跡ミュージアム 協議会

開催日：平成 29 年 5 月 19 日 (金)

場 所：町役場研修センター 1 階東側会議室

協議内容

- ・入館者等状況, 平成 28 年度事業実績, 平成 29 年度事業計画, 運営計画, 重要文化財等

第 2 節 利用状況

①入館者数

平成 26 年度 2,429 名 (町内 1,268 名, 町外 1,161 名)

平成 27 年度 11,225 名 (町内 3,064 名, 町外 8,161 名)

平成 28 年度 7,226 名 (町内 1,899 名, 町外 5,327 名)

②体験学習利用者数

平成 27 年度 981 名, 350,500 円

(初級 775 名 232,500 円, 中級 176 名 88,000 円, 上級 30 名 30,000 円)

平成 28 年度 805 名 340,600 円

(初級 402 名 120,600 円, 中級 366 名 183,000 円, 上級 37 名 37,000 円)

③書籍販売

平成 27 年度 売り上げ：53,500 円

(郷土誌 4 冊, 広田遺跡報告書 6 冊, 南種子の民俗 9 冊, 南種子の民具 6 冊, 南種子の文化財 21 冊)

平成 28 年度 売り上げ：34,000 円

(郷土誌 4 冊, 広田遺跡報告書 2 冊, 南種子の民俗 7 冊, 南種子の民具 2 冊, 南種子の文化財 18 冊)

第2章 館の事業

第1節 展示

(1) 企画展

企画展：古代文化と宇宙芸術展～港千尋「洞窟へ」心とイメージのアルケオロジー

期 間：平成29年8月5日（土）～11月12日（日）

内 容：時をさかのぼる旅のなかで、洞窟と創造性の秘密を探ってきた港千尋。インドネシア、スラウェシ島における洞窟壁画と、種子島で出土した同時代の石器がミュージアムで出会う。心とそこから生じるイメージとの関係をめぐる考古学的試み。

利用者数：2,917名

(2) イベント

○GW 特別イベント「むかしのこどもの遊び体験」

期 間：平成29年5月3日（水）～5月5日（金）

場 所：体験学習室

体験料：無料

内 容：竹をつかった昔の遊びと、昔の鳥を捕まえるワナの体験などをおこなった。

利用者数：249人

○3周年記念イベント 広田遺跡語り部の会 主催

「広田の岩穴焚き」

期 日：平成30年3月18日（日）13時30分～16時00分

場 所：広田の岩穴（国史跡広田遺跡公園近く）

参加料：無料

第2節 教育・普及啓発

(1) 広田遺跡ミュージアム ジュニア学芸員

ジュニア学芸員は、小学校2年生～高校3年生までを対象に、種子島の歴史・文化・自然を学んでいただく教育・普及啓発事業である。所定の課程を修了した受講生には、ジュニア学芸員修了証を発行している。

ジュニア学芸員の人数

	小学生	中学生	高校生	合計
平成26年度	19	5	0	24人
平成27年度	21	6	0	27人
平成28年度	28	8	1	37人
平成29年度	27	3	0	30人

平成 29 年度活動

- 第 1 回 平成 29 年 6 月 18 日（日） 開校式 広田遺跡の謎を学ぼう！体験しよう！
講師：石堂和博（広田遺跡ミュージアム学芸員）
- 第 2 回 平成 29 年 7 月 9 日（日） むかしの体験をしよう（1）
～広田川で遊ぼう，学ぼう～
講師：原南海雄，平島強（広田遺跡語り部の会 会員）
- 第 3 回 平成 29 年 8 月 20 日（日） むかしの体験をしよう（2）
～瀬風呂体験とビーチコーミング～
講師：向井良隆（広田遺跡語り部の会 会員）
- 第 4 回 平成 29 年 9 月 3 日（日） むかしの体験をしよう（3）
～植物採集と押し花作り～
講師：田淵川サナエ（広田遺跡語り部の会 会員）
- 第 5 回 平成 29 年 10 月 15 日（日） 宇宙芸術を体験しよう！
「島でつながる星」ワークショップ
講師：豊福亮（アーティスト，東京藝術大学卒業）
- 第 6 回 平成 29 年 11 月 25 日（土） 赤米のシンポジウムに参加しよう！
講師：相川七瀬トンミー大使 他
- 第 7 回 平成 29 年 12 月 17 日（日） 古代食 どんぐりクッキーをつくってみよう！
講師：鶴田静彦，佐伯圭子（広田遺跡語り部の会 会員）
- 第 8 回 平成 30 年 3 月 18 日（日） 閉校式 むかしの体験をしよう（4）
～岩穴焼き，古代の料理法「集石」による安納焼芋～
講師：広田遺跡語り部の会

(2) たねがしま古代塾

たねがしま古代塾は，地域の歴史を学び，文化財等の大切さを知ることを目的として，塾長に鶴田静彦氏（西野小学校校長，前鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター調査課長）を迎え，平成 26 年度から開講し，以下の活動を行ってきた。この講座の受講生の中から，広田遺跡語り部の会に加入した方もいて，着実に成果をあげている。

平成 29 年度

- 第 1 回目 開校式，座学『たねがしまを知ろう』 講師 鶴田静彦 先生
6 月 19 日（月） 19 時～ 20 時 30 分 場所：町中央公民館第 1 会議室
- 第 2 回目 たねがしまの海・川の生き物，化石
講師 原南海雄，平島強（広田遺跡語り部の会）先生
7 月 9 日（日） 13 時 30 分～ 15 時 30 分 場所：広田遺跡ミュージアム
- 第 3 回目 『種子島宇宙芸術祭を体感しよう！』 講師 種子島宇宙芸術祭参加芸術家
8 月 20 日（日） 9 時 00 分～ 11 時 00 分
場所：種子島宇宙芸術祭インフォメーションセンター

- 第4回目 たねがしまの古代体験「瀬風呂体験」 講師 広田遺跡語り部の会
9月 3日(日) 9時30分～11時00分 場所：広田遺跡ミュージアム
- 第5回目 「南種子町の歴史・文化遺産をたずねてみよう！」 講師 鶴田静彦 先生
11月4日(土) 9時00分～11時30分
場所：南種子町役場研修センター前
- 第6回目 「赤米シンポジウムに参加しよう！」
講師 小島摩文(鹿児島純心女子大学教授) 相川七瀬(アーティスト) 他
11月 25日(土) 13時00分～16時00分
場所：南種子町福祉センターホール
- 第7回目 「古代食どんぐりクッキーをつくろう！」
講師 鶴田静彦(塾長), 佐伯圭子(広田遺跡語り部の会) 先生
12月17日(日) 13時30分～15時30分
場所：広田遺跡ミュージアム体験室
- 第8回目 岩穴焼き, 古代の料理法「集石」による安納焼芋
講師 広田遺跡語り部の会, 鶴田静彦(塾長) 先生
3月18日(日) 14時～15時50分 場所：広田の岩穴他

(3) 広田遺跡ミュージアム 講座 (平成29年度)

○特別講座「南種子の郷土芸能」

日時：平成29年5月22日(月)10時00分～11時30分

講師：広田遺跡ミュージアム名誉館長 下野敏見

参加者数：20名

○特別講座「古代文化と宇宙芸術展～港千尋『洞窟へ』心とイメージのアルケオロジー」

日時：平成29年9月18日(月)

講師：港千尋(多摩美術大学教授) ※台風のため中止

(4) 出前講座

- ・町内小・中学校及び種子島中央高校への出前講座実施
- ・高齢者学級を対象とした出前講座実施

(5) 研修等

○職員研修(平成29年度)

名称・主催：「文化財保護行政担当職員研修会」 県教育庁文化財課

日時・場所：平成29年5月12日 研修参加者：石堂和博(学芸員)

第3節 管理・運営

(1) 広田遺跡語り部の会

広田遺跡語り部の会は、広田遺跡の発掘に実際に参加したり、発掘に参加した方の子孫であったり、たねがしま古代塾に参加し、島の歴史に興味をもったりした方など、10名で結成した広田遺跡のサポーターである。館がオープンする前の、平成26年12月に結成され、それから3ヶ月間活動をした後、平成27年3月の館オープン以降は、広田遺跡語り部として展示案内などの館活動に参画している。

○広田遺跡語り部の会 会員 名簿

会長：長田君應，副会長：向井良隆，監事：長田隆幸・峯山弘子，会員：平島強，佐伯圭子，田淵川サナエ，兵藤幸夫，名誉会長：原南海雄，顧問：羽生源志

○平成29年度の活動内容

- 4月10日(月) 4月定例ボランティア清掃 館及び広田遺跡公園の美化・清掃
年間計画話し合い
- 4月25日(火) 5月定例ボランティア清掃 館及び広田遺跡公園の美化・清掃
業務内容確認，ゴールデンウィーク計画
- 5月1日(月) GW イベントの準備 体験内容講座・道具準備
- 5月9日(火) 防犯訓練
- 6月20日(火) 6月定例ボランティア清掃 雨天の為，室内にて遺跡に関する講座
- 7月12日(水) 7月定例ボランティア清掃 館及び広田遺跡公園の美化・清掃
瀬風呂調査
- 8月3日(木) 8月定例ボランティア清掃 館及び広田遺跡公園の美化・清掃
瀬風呂準備
- 9月3日(日) 島内研修 遺跡・宇宙芸術祭展示品巡り及び「瀬風呂」の再現
- 10月7日(土) 10月定例ボランティア清掃 館及び広田遺跡公園の美化・清掃
- 10月15日(日) 歓送迎会 小脇課長，原南海雄，兵藤幸夫
- 11月16日(木) 11月定例ボランティア清掃 館及び広田遺跡公園の美化・清掃
- 12月19日(火) 語り部の会忘年会
- 12月25日(月) 年末大掃除 門松作り
- 1月18日(木) 1月定例ボランティア清掃 門松撤収作業 館及び広田遺跡公園の
美化・清掃
- 2月23日(金) 2月定例ボランティア清掃 館及び広田遺跡公園の美化・清掃
岩穴焚き準備
- 3月12日(日) 3月定例ボランティア清掃 岩穴焚き準備 広田遺跡公園花植え
- 3月18日(日) 岩穴焚き古代体験 語り部の会総会

(2) 視察等

○熊毛支庁 総務企画課 行政視察

日時：平成 29 年 4 月 26 日 視察者数：3 名

○公益社団法人鹿児島県観光連盟 行政視察

日時：平成 29 年 6 月 3 日 10 時 00 分～ 11 時 00 分

視察者数：8 名

○宮崎県小林市社会教育課 視察研修

日時：9 時 00 分～ 10 時 00 分

視察者数：子供 10 名 大人 3 名

○大阪府箕面市議会 本市文教常任委員会 視察

日時：平成 29 年 11 月 9 日 11 時 00 分～ 12 時 00 分

視察者数：8 名

○総社市教育委員会 行政視察（赤米交流）

日時：平成 30 年 1 月 20 日 12 時 00 分～ 13 時 00 分

視察者数：5 名

(3) その他

○防災・防犯

(1) 消防計画の策定：防火管理者 庶務係長 才川いずみ

(2) 自衛消防・防犯訓練の実施

日時：平成 29 年 5 月 9 日 10 時 00 分～ 11 時 30 分

目的：防火・防犯訓練

内容：参加人数 10 名

広田遺跡ミュージアムに強盗犯が来たと想定し、対処・通報等の模擬。

種子島警察署生活安全課職員による指導，防犯訓練。自衛消防・防火訓練の実施

○広報

・BS ジャパン「空から日本を見てみよう」で広田遺跡ミュージアムの紹介映像を放映

・種子島宇宙芸術祭公式ガイドブック（美術出版社）にて「古代文化と宇宙芸術展」紹介記事掲載

・種子島宇宙芸術祭公式ガイドブック（美術出版社）にて「次元を超えて交流する文化」と題して鼎談で広田遺跡の紹介（鼎談者：山崎直子×椿昇×石堂和博）

○文化財の保存・管理

重要文化財の運搬

広田遺跡は、H-Ⅱ A 及び H-Ⅱ B ロケットの警戒区域に設定されているため，文化庁美術学芸課の指導により，ロケットの打ち上げの際に重要文化財を南種子町立埋蔵文化

財センターに搬出することとなっている。

平成 29 年 5 月 31 日 (水)	ロケット打ち上げに伴う搬出	対応：石堂
平成 29 年 6 月 1 日 (木)	ロケット打ち上げ終了に伴う搬入	対応：石堂
平成 29 年 8 月 18 日 (金)	ロケット打ち上げに伴う搬出	対応：石堂
平成 29 年 8 月 20 日 (日)	ロケット打ち上げ終了に伴う搬入	対応：石堂
平成 29 年 10 月 9 日 (月)	ロケット打ち上げに伴う搬出	対応：石堂
平成 29 年 10 月 10 日 (火)	ロケット打ち上げ終了に伴う搬入	対応：石堂
平成 29 年 12 月 22 日 (金)	ロケット打ち上げに伴う搬出	対応：石堂
平成 29 年 12 月 23 日 (土)	ロケット打ち上げ終了に伴う搬入	対応：石堂
平成 30 年 2 月 26 日 (月)	ロケット打ち上げに伴う搬出	対応：石堂
平成 30 年 2 月 27 日 (火)	ロケット打ち上げ終了に伴う搬入	対応：石堂

第 4 節 調査・研究

(1) 調査・研究

平成 29 年 6 月 4 日 科学研究費「3～7 世紀の琉球列島における人と文化の交流史研究」
木下尚子（熊大教授）「第 1 回研究会」 場所：南種子町 研究会
参加者：石堂和博，小脇有希乃

平成 29 年 9 月 18 日～21 日

科学研究費「3～7 世紀の琉球列島における人と文化の交流史研究」木下尚子（熊大教授）

「久米島における広田式土器の調査」調査場所：久米島 調査実施者：石堂和博

平成 30 年 1 月 文化財保存全国協議会編「明日への文化財」77 号（2018 年 1 月号）
「種子島広田遺跡の保存と整備」掲載（石堂和博）

平成 30 年 1 月 8 日～11 日

科学研究費「3～7 世紀の琉球列島における人と文化の交流史研究」木下尚子（熊大教授）「九州大学総合研究博物館所蔵広田式土器等の調査」調査実施者：石堂和博

平成 30 年 2 月 18 日～20 日

科学研究費「3～7 世紀の琉球列島における人と文化の交流史研究」木下尚子（熊大教授）「広田式土器の胎土分析にかかる研究」調査実施者：石堂和博

(2) 研究報告

「南種子町西之の坂とセの名前とその由来について」

広田遺跡ミュージアム協議会委員

南種子町文化財保護審議会委員 日高 友典

はじめに

種子島には、それぞれの地域毎に、昔から呼び習わしてきた地名がある。これらの地名は、南種子町地名研究会などによって記録や研究がされてきたが、坂道や海のセの名前は、未だ調査、記録が不十分である。本報告では、南種子町大字西之地内の坂の名称と海のセの名前や由来について記録し、若干の考察を加えたい。

セとは何か

種子島では、海の上に出ている岩礁のことを、セと呼ぶ。また、基本的に海中にある岩礁などの地形は、ハエやソネと呼ばれている。このセは、一般には、瀬の字が充てられているが、広辞苑などを引くと、瀬には、川の浅瀬という意味はあるが、海の岩礁を指すとする辞典は知る限りない。そこで、広辞苑でセと書く漢字で、海に関するものを調べたところ「石罎」の字が目についた。このセはカメの手の異称で、セイとも呼ぶと書かれていることから、カメの手、つまりセイ、セーが生息しているからセと呼び、漢字では(石罎)を充てた可能性がある。九州地方の方言で、一般に、セを瀬と書くからといって、種子島でもまたそうであったとするのは根拠が不十分と思われるので、私は、セ=セイ=石罎説を新たに唱えたい。よって、本論では、以下、セを石罎と呼称する。なお、名前がついている石罎は、水面から出ている石罎がほとんどで、主に釣りの出来る石罎に名前がついている。これは、釣り仲間同士で、どこその石罎と呼ぶための標識の為であり、また、船釣りの場合に、位置を当てるために名前をつけたのだらうと思われる。であるから、石罎の中には、名前がつけられていないセもある。

西海地区（大字西之地内）の石罎と坂

西海地区のうち、上立石、下立石集落は、大字が西之となっている。そこで、下立石集落の古老で石罎と坂の名称に詳しい漁師の立石光義、立石一昭、立石豊市氏から聞き取り調査を行った。

西海地区には、35の名前が付いた石罎がある。その名前の由来については、知っている人がおらず、その石罎の姿から名前がつけられていると言う。なお、魚が釣れる石罎だけに名前があるとのことであった。また、名前がつけられた時期が分かる石罎は一つもなかった。古老の中には、数十年、いや数百年前から、そのセで魚が釣れた時々名前がつけられたのだらうという意見を持つ方もいる。

35ある石罎のなかで、その姿から付けられた名前を拾うと、軍艦の姿に似たゲンカンゼ、校舎の形をしたガッコウゼ、コズミのようにちょっとだけ海上に出ているチョップイ、大きな石罎であるオオブラセ、平らな石罎であるヒラセなどがある。また人の名前をつけた石罎として、

ケンスケゼ、キューナー、ハチビョウなどがあり、カゴンセ、フタンゼ、オニーロ、インゼも人の名前に由来する可能性がある。また、釣れる魚の種類がつけられた、サババエ、メバエなどがある。ただし、これらのハエは、かなり潮が引いた時にしか姿を現さない水中の地形のことであるが、西之では、ハエを取り囲む石罅までを含めて、ハエと呼ぶ場合がある。其の他の石罅については、写真1を参照されたい。

続いて、坂の名前について紹介したい。西海地区は、以前は住居が全て海岸付近に建てられており、主に漁業を生業とし、副業的に製塩業を営んでいたという。その後、製塩業や漁業が振るわなくなると、農業に転じたという。農業をするための作場（農地）は台地の上にあるため、作場にいくためには坂を上る必要がある。その作場へ登る坂は5カ所ある。坂の名前が作場の小字名で呼ばれているのが、「大阪の上」坂、「イワタガリ」坂などである。また集落の上と下（種子島では、より北側のことをカミと呼び、上の字をあてる。より南側をシモやスエと呼び下の字をあてる）に位置する坂をそれぞれ、上坂（カミザカ）、下坂（スエザカ）と呼んでいる。スエザカは、旧道にあたり、メンが出ることで有名で、夜間通るのが誰でも恐ろしい坂であったという。他に、ローザカという坂があるが、その由来について知る人はいなかった。

なお、大阪の上の坂には、もう一つの名前がある。字「大阪の上」に隣接している字「大中山」、 「割り仲山」は、通称、一本ケラと呼ばれているが、それは、次のような伝説に由来する。昔、この辺りは種子島で一番標高（海拔）が高い所であり、種子島が海底に大半が沈んだ時も、最後まで残った丘が今の字「大中山」、 「割り中山」で、一本のケラの木（ヒサカキ）だけが海上に出ていたと言うものである。こうした伝説にちなんで、この周辺を一本ケラと呼んでいることから、一本ケラ坂とも呼ばれている。

西之地区の石罅と坂

続いて、西之地区の石罅と坂の名前とその由来について、集落毎に紹介したい。まず、砂坂、管造牧集落である。この地域で漁に一番詳しい古老、砂坂秋義氏及び長老の砂坂實氏の協力を戴き調査した。

砂坂集落の石罅は25箇所、坂については、4箇所名前がついている。25ある石罅のなかで、その姿から付けられた名前を拾うと、沖にある大きな石罅であるオキノオオセ、真ん中あたりにある大きな石罅であるナカノオーセ、基準となる場所より南側にあるシモノハエ、基準となる場所の真ん中あたりにあるナカバエ、丸い形からマロセ、カミノウマノリ、どちらか一方に斜めに傾斜した平たい石罅で、片側は垂直に切り立った石罅であるカラヒラセ、他の石罅より背が高いタカセ、大きな石罅であるオーバエ、白味がかかったシラボウセ、鯨のような姿のクジラゼなどがあげられる。また、人の名前からつけられているものとして、キテイーセ（吉）、ミツキゼ、サゲ、ヤゼなどがある。釣れる魚によってつけられたものとしては、イカトリバエ、丘に舟を入れるときに舟の通り道沿いの石罅であるフナゼがある。其の他の石罅については、写真2, 3, 4を参照されたい。

続いて、坂の名前について紹介したい。まず、カンロー坂は、砂坂集落で製塩業が盛んだった頃に、製塩の技術者として功績のあったカンロー氏の偉業を称えた記念碑が建っていたところがカンロー坂であり、集落内の旧道の坂道である。また、この集落から田代、下中などの米所に行商

に行き米と塩とを交換するために登った坂を塩浦坂（シオウラザカ）と呼んでいる。これは古老によると、塩売り坂が転じて塩浦坂となったのではないかという。それ以外は小字が坂の名前となっているものが多い。

次に上西目（野尻・木原）集落である。漁に一番詳しい小脇忠男氏及び濱田岷彦氏の協力を戴き調査した。

上西目集落の石罎は 20 箇所、坂については 6 箇所名前がついている。20 ある石罎のなかでその姿から付けられた名前を拾うと、オキノオーセ、ナカノヒラセ、兜のような形をしたカブトセ、黒味がかった岩のクロセ、マルセ、オービラセ、白のような形のウスゼ、杵のような形のキネゼ、長いハエであるナガバエ、ヒラセなどがある。また、人の名前からつけられているものとしてはキイーセ、ゲンロク、タカギなどがあり、釣れる魚による名前としてヒサのイオが採れるヒサバエ、潮が引いた時に知らずに舟で通ると舵をひっかけて舵を折る（舵がマカレル）ことがあったカジマキなどがある。其の他の石罎については写真 4、5 を参照されたい。坂の名前は、その周辺の小字がついたものとして、コウサキ坂、ナカノ坂、ミチカザカなどがあげられる。また、ジロシ坂、コザカなどについては人の名前につけられているという。

次に、中西目（小田・前之原）集落である。ここでは、漁に一番詳しい白元秀男氏及び松原三千夫氏の協力を戴き調査した。

中西目集落の石罎は 21 箇所、坂については、5 箇所名前がついている。21 ある石罎のなかで、その姿から付けられた名前を拾うと、タカセ、ヒラセ、館船の形をしたヤカタゼ、ナカゼ、灯台のような形のトーラゼ、海岸から見ると海岸に並行に伸びているため横に長く見える大きな石罎であるヨコセ、本当に小さな石罎で一人しか立てないくらいだが魚が好く釣れるコセ、舟のトモに似ているトモナカなどがある。また、人の名前からつけられたものとして、カセ、シンキュウなどがあり、釣れる魚や漁関係によってつけられたものとして、海岸側に向いて釣ると魚がよく釣れる石罎であるオカムケ、ゴンゴジョウ（ヤドカリ）が多いゴンゴバエ、腰まで浸かって釣るとよく釣れるコシンゼなどがある。チョウミョウ、キヨモンタカセ、ラークンセなどは由来が分からない。其の他の石罎については、写真 6 を参照されたい。坂の名前は、その周辺の小字や周辺の施設に由来するものがほとんどで、字が赤坂であり、赤く風化した石や土で赤く見えるアカ坂（アカホヤ火山灰が見えている）、字名をとったコガハロ坂、タジリ港坂、字名をとったオオクボの上坂などがあげられる。

次に下西目地区である。ここでは、漁に一番詳しい高田安則氏及び高田安美氏の協力を戴き調査した。下西目集落の石罎は 30 箇所、坂については、4 箇所名前がついている。30 ある石罎のなかで、その姿から付けられた名前を拾うと、オオヒラセ、小さく平らな石罎であるコビラセ、遠いところからみるとそこに人がいるように見えるヒトゼ、沖にあるオキノナベ、陸側にあるオカノナベ、ただし、ナベの意味はわからない。下西目港はもともとアカセ浦と呼んでいたが、その由来となったアカセ、少し黒味がかった岩であるコグロセ、基準となるものからみて中間にあるウロー、カタヒラセ、ヨコバエなどがある。また、人の名前からつけられたものとして、サネゾウ氏が初めてそこで魚を釣ったというサネゾウツリダシ、ハノウという人が良く釣っていた場所であるハノーセ、シチロウ氏が良く釣っていたシチロウヨコセ、ジンスケ氏が良く釣っていたジンスケバエ、ノボル氏が良く釣っていたノボルオオセなどがある。釣

れる魚や、漁関連によってつけられたものとしては、この石罅のまわりは深く潮の荒い所であるサメガセなどがある。また、魚が良く釣れる石罅だが由来の分からないキーセなどもある。其の他の石罅については、写真6, 7, 8を参照されたい。

坂の名前は、その周辺の小字や施設に由来するものとして、下西目港に降りる坂であるアカセ浦坂（下西目港を昔はアカセ浦と呼んだ）、コヤノクボという字にあるコヤン坂などがある。スベクリ坂は、あまりにも急な坂で、馬も登り切れないほどの坂であった所であり、滑る坂ということでスベクリ坂とつけられた。また、カマツリ坂については、この坂は「チョコメン」がよく出るところで、自分の身を守るために一番軽いカマ（鎌）を腰につけて（腰に吊り下げて）作場に通ったことからつけられた名前という。

次に本村・崎原集落である。漁に一番詳しい濱田敏幸氏の協力を戴き調査した。本村・崎原集落の石罅は18箇所、坂については4箇所名前がついている。18ある石罅でその姿から名付けられたものは、ウスゼ、ナガセ、ちょっとだけ岩が見えているチョッポイ、コビラセ、タカセ、ムシロ（イナマキ）を広げたような平たい石罅であるイナマキバエなどがある。また、人の名前からつけられたものとしてミンゼ、チョウザー、ヤハンゼ等がある。漁によってつけられた石罅はない。其の他の石罅については写真8, 9を参照されたい。

坂の名前は、その周辺の小字に由来するものとして、ミズシリという字にちなんだミズジリ坂、亀の甲という字にちなんだカメンコウ坂があげられる。

またリュウアンザカ（流岩坂、流安坂、龍安坂）は、この辺りが、岩盤がもろく、雨が降るために土砂崩れをおこしたため、リュウアン坂と呼ばれるようになったという。これは、種子島の方言で、崖が崩れること、土砂崩れがおこることを、リューワー、ジューワーなどと呼ぶことからリュウアン坂と呼ばれるようになったという訳である。また、ある人は、本村集落の人で、崎原集落周辺で畑作を営んでいる人がいて、あまりにもこの坂が急なため大変なおもいをしていて、化学肥料が流行すると、硫安を一俵かついでいけば畑の肥料がまかなえた、硫安という肥料に感謝する意味で、硫安坂と呼んでいたと言う話も聞いた。

鳴子坂については、複数の由来があり、南種子町地名研究会などで調査報告されている。私が、存命の古老より聞いた話しでは、本村集落の人々の畑作地は平野地区の周辺にあることから、人々（子供）が荷物、農具、肥料などを背負って平野集落の畑に通う時、あまりにも急な坂道で大変きつかったため、泣きながら登ったので泣き坂が鳴子坂になったのではということであった。鳴子坂の中で、特に急な場所を泣き坂という人もいる。

次に田代集落である。この集落の古老の鮫島勝彦、徳永壽彰氏の協力を戴き調査した。海に面していない集落なので、坂の名称だけ聞き取った。坂は4箇所あり、いずれも小字名がそのまま付けられていて、平九郎坂、昇り上がりの坂、田中の上の坂、原の園という字にちなんだハロン坂（原の坂）である。

なお、西之地区には他に、平野、上瀬田、野大野集落などがあるが、これらの集落は海に面しておらず、ほとんど平坦で畑作地帯であり、坂らしき坂はない。ただ上中から西之地区に入る辺りに大変長い坂があり、これを立（断）切坂と呼んでいる。この立（断）切坂は、大字中ノ下、宇野能野にある坂で下中地区に属しているが、西之地区の玄関口の坂であるから特別に触れておきたい。立切坂ができる以前は、上中から西之への道は、人がようやく通るぐらいの

細道で、立切坂よりも西側にあり相当勾配のきつい坂だったという。一説によると、馬や馬車が通われはじめると、良い道を造らなければいけないということになり、大山（大木）を切り開いて作ったから立木切坂が立切坂となったという。もう一説には、タチキリザカは、断切坂と充てるのが正しく、西之と下中の大字境界を断切ったことからつけられたというものである。それは、次のような昔話に由来する。昔、大字の境界をどこにするかで下中と西之の庄屋が話し合いをしたが、結局折り合いがつかず、競争で決めようということになった。夜中の零時を過ぎ、一番鶏が鳴いたと同時にスタートし、下中と西之の代表が出会った所を境界にしよう話し合いがまとまった。そこで、各校区の庄屋は、それぞれ相談した結果、西之が一番足の速い人を選出した。下中は、当地には西之より足の速い人はいない、どうしたら遠くまで行けるか相談した結果、ある人が一番鶏の鳴きだしを早くすればよいと考えついた。その方法は、まず、孟宗竹を半分に分けて、鶏の止まり木にする。鶏を鳴かせたい時間になったら、沸かしたお湯をその孟宗竹に流すと、お湯が足元まで流れてくるものだから、鶏が驚いて早く鳴くというものである。普通、一番鶏が鳴くのは、だいたい夜中の2時半から3時半頃である。不正をしないように、1番鶏の鳴く確認をする立会人がそれぞれ相手にわからないようにこっそりいたという。両者ともに1番鶏の鳴き声と同時にスタートしたが、西之は夜中の3時半過ぎ、下中は夜中の2時半頃だったという。そこで、下中の人、遠くまで歩くことができ、この断切坂でばったり会った。このあたりの字は「野能野」と「通り水」で、ここで大字の境界を断切ろうと話し合ったため、断切坂となったというものである。

まとめ

石働と坂の名前を調べたところ、石働は主にその形から名付けられる場合が多いことがわかった。また、そこではじめて釣果をあげた人物や漁撈にちなむ場合もあった。坂の名前は、小字名に由来する場合が多いものの、特定の人物や坂の特徴（急な坂、土砂崩れの置きやすい坂など）や伝説にちなむものもあった。

こうした、石働と坂の名前は、昔はその地区に住む人であれば、誰もが自然と覚えているものであったが、昨今、そうした地名の伝承が急速に失われている。今回の記録調査によって、石働と坂の名前とその由来が次世代に伝承され、地域のもつ豊かな歴史・風土を活かした地域おこしにつながることを私は願っている。



図1 西之の坂



写真1 西海地区



写真2 砂坂(北側)



写真3 砂坂(南側)



写真4 野尻



写真5 木原



写真6 中西目・下西目



←オカノナヘ
←オキノナヘ
←ソンスケバエ
←オキノオーセ

←カマクラセ

←ハノーセ
←トモナカ
オキノハエ↑
↑ウスゼ

←ヨコハエ

←カタヒラセ

←チョウザー

←トウラーゼ

写真7 下西目



写真8 下西目・嵯原

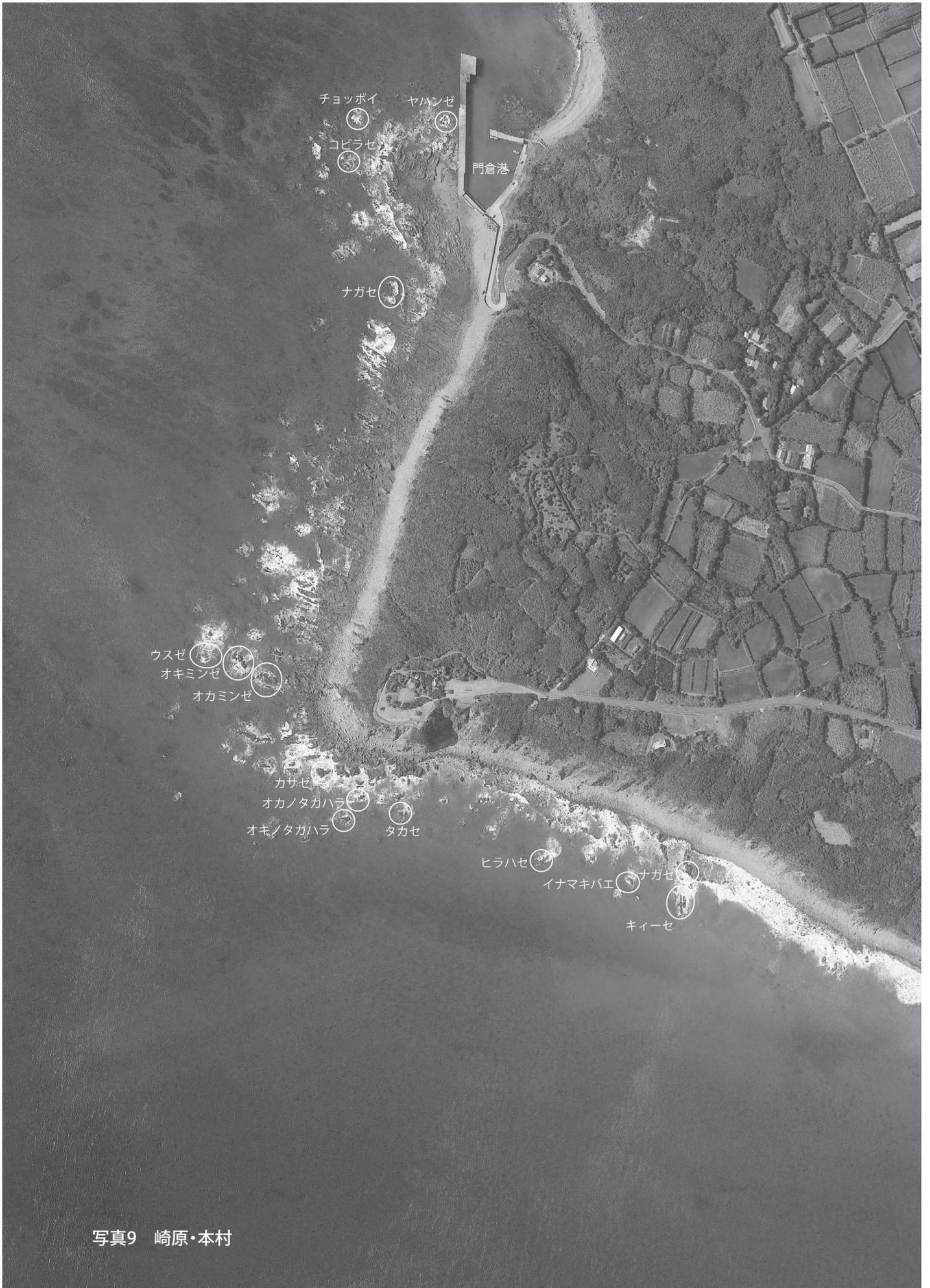


写真9 崎原・本村

広田遺跡ミュージアム館報 第2号

発行日 2018年3月30日

編集・発行

広田遺跡遺跡ミュージアム

〒891-3702 鹿児島県熊毛郡南種子町平山 2571

TEL 0997 (24) 4811

印刷所

(有)種子島新生社印刷

〒891-3101 鹿児島県西之表市西之表 16736 番地 1

TEL 0997 (22) 0476

BULLETIN OF HIROTA SITE MUSEUM

Volume 2

March 2018

MINAMITANE TOWN HIROTA SITE MUSEUM